

神奈川県公立中学校教育研究会

美術部会 会報



2021年度研究報告

神奈川県公立中学校研究部会 広報部

2021年度 美術会報目次

- 1、1ブロック 横浜地区
- 2、2ブロック 川崎地区 -
- 3、4ブロック横須賀地区
- 4、5ブロック 鎌倉地区
藤沢地区
- 5、6ブロック伊勢原地区
中地区
平塚地区 -
- 6、7ブロック南足柄地区
小田原・足柄下地区
-
- 7、8ブロック 座間地区
大和地区 -
厚木・愛甲地区
- 8、広報部連絡
- 9、編集後記

表紙写真 令和3年度第55回神中美展・令和4年度県西総会より

1 ブロック横浜地区

1. 令和3年度の研究テーマ

「みること みえてくること ～学びの行く先～」

2. 重点研究について

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究
- ② 「横浜らしい教育課程」の実現に向けた諸課題における研究
- ③ 美術教育の普及を推進する組織や人材との連携の研究

3. 具体的活動について

- ① 地区ブロックや各区での題材や授業の研究推進
 - 各区の研究テーマを市のテーマに基づいて設定し、研究成果を報告。
 - 地区内の分担区で区教研が行われる公開授業を市の研究会とし、研究発表の場に設定(紙面)。
 - 年度末に研究集会を開催し、地区ブロックでの分担区が研究報告を実施。
- ② 重点研究を視野に入れた題材の開発・研究紹介の推進
 - 研究報告会や実践発表会を開催し、会員相互の研究意欲を高め、一層の交流を図る。
- ③ 各美術館・ギャラリー、各団体との連携推進
 - 「横浜美術館」と連携した美術研修および協力を推進。
 - ・「横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研修会」(12/11 オンライン開催)
 - ・「横浜美術館コレクションによる中学校授業研究会」(未開催)
 - 「横浜市民ギャラリーあざみ野」と連携した美術研修および協働を推進。
 - ・「アートアニメーションワークショップ」(7/30 横浜市民ギャラリーあざみ野)
 - ・中学校美術科及び部活動による「アニメーションフェスティバル」1/23 横浜市庁舎)。

4. 研究内容・活動内容などの実践報告

令和3年度横浜市立中学校アニメーションフェスティバル

日時：2022年1月23日 14:00～16:00

場所：横浜 市庁舎1 F アトリウム

2012年度より 横浜市民ギャラリー あざみ野にて 実施してきました、アニメーション制作のための技法を実習的に学ぶ実技研修を還元する発表として創設された「横浜市立中学校アニメーションフェスティバル」も、今年度で4回目を迎えました。参加校も年々増え、今年度は12校が参加し、第1回の参加校数の倍になりました。今年度も生徒による司会進行を事前に撮影したもので行い、また今年度は各校作品を上映する際に参加校生徒が登壇して上映をする計画していましたが、まん延防止等重点措置等もあり、生徒の移動をなしとして上映しました。引率による参加ができた学校は3校のみではありましたが、当日に上映した作品のデータおよび講師の先生方からのご講評をDVDデータで参加各校に配布していただき、各校で上映していただいてメッセージカードのやりとりを行うことで交流を図りました。



令和3年度横浜市立学校総合文化祭

日時：2022年1月26日～1月30日

場所：横浜市民ギャラリー

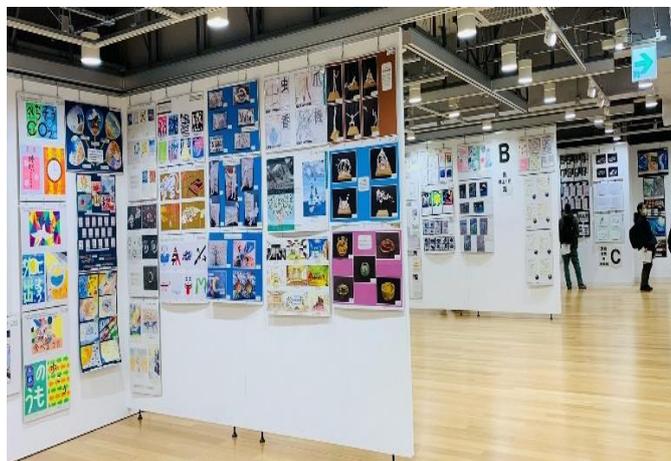
令和4年1月26日（水）～1月30日（日）横浜市民ギャラリーにおいて、令和3年度横浜市立総合文化祭が行われました。昨年同様にコロナ禍であるがゆえに開催自体が危ぶまれましたが、教育委員会事務局の方々や様々な諸機関、そして市中美役員はじめ多くの先生方との連携により、出品や入場の決まりについて十分な検討を重ね、展覧会を無事に開催することができました。

美術部展では、参加校30校、出品作品数487点、来場者数535人でした。今年度は職員で受付業務を分担し、搬入も分散して行いました。間際まで開催が危ぶまれ、そして搬入時には台風の懸念もありましたが、スムーズに行えました。

総合文化祭では、昨年同様ギャラリーの各フロアに、感染症拡大防止のための人数制限がある関係上、中学校の部では搬入のスリム化を行い、今年も平面作品のみとしました。

今年度は出品校123校、作品数1977点、3階来場者数2145人でした。入場制限があるにもかかわらず、鑑賞に関しても大きな混乱もなく、ご理解頂きながらご協力して頂きました。

ご家族や親戚で来場して頂いた方々を見て、我々が思っている以上にとても楽しみに来ていることを、我々美術科教員は肝に銘じ、責任をもって続けて行かなくてはならない事を再確認しました。コロナ禍を機に作品展のあり方も考えなければならないのかもしれないかもしれません。来年度もそんな想いを胸に開催できればと思います。



2 ブロック 川崎地区

1. 研究テーマ

『 つながる つなげる ～今と未来に生きる私たちの美術～ 』

2. 1年間の実践報告

日 時	会 場	内 容
4月16日(金)	渡田中学校	美術科教科部会総会 常任委員会①
(各地区で日程設定)	(各地区の会場)	各地区研究会①
6月23日(水)	渡田中学校	第61回美術科「6月会」(中止)
6月24日(木)	オンライン	川崎市造形教育連合会 第1回創造する子ども展実行委員会 15:30～
7月29日(木)	川崎市総合教育センター	美術科評価・評定研修会 常任委員会②
8月下旬	オンライン	中学校教育課程研究会
(各地区で日程設定)	(各地区の会場)	各地区研究会②
9月7日(火)	オンライン	川崎市造形教育連合会 第2回創造する子ども展実行委員会 15:30～ *第63回創造する子ども展中止の決定がされる。
10月22日(金)	サン・エール さがみはら	第48回神奈川県公立中学校教育研究会美術科部会 相模原地区大会(中止)
10月27日(水)	各地区	連合文化祭美術科 表現活動と鑑賞
(各地区で日程設定)	(各地区の会場)	各地区研究会③
11月24日(水)	渡田中学校	常任委員会③ 神奈川県中学校美術展出品作品額装
11月29日(月)	神奈川県民ホール	第54回神奈川県中学校美術展 搬入
11月30日(火) ～12月5日(日)	神奈川県民ホール 神奈川県民ホール	第54回神奈川県中学校美術展 第54回神奈川県中学校美術展 搬出
12月17日(水)	川崎市立東橋中学校	令和2・3年度 川崎市教育委員会研究推進校 中学校 美術科 研究報告会
2月3日(木)	川崎市教育文化会館	第55回川崎市中学校造形展 搬入(中止)
2月5日(土)、 2月6日(日)	川崎市教育文化会館	第55回川崎市中学校造形展(中止)
2月7日(月)	川崎市教育文化会館	第55回川崎市中学校造形展 搬出(中止)

3. 6月会について

令和2年度に続き、今年度もコロナ禍により、残念ながら中止となってしまった。長年に渡り、研究発表の場として川崎市の美術科教員が力を合わせ築き上げてきた実績を絶やさぬように、次年度はコロナに負けず開催し、研究を継続して行きたい。

4. 連合文化祭について

川崎市では、連合文化祭として毎年10月下旬に、弁論大会や競書大会、音楽会、演劇発表会などを開催している。今年度54回を数える伝統ある行事となっている。昨年度に続き、今年度も感染対策を十分に行い、実行した。美術科部会では、表現活動と鑑賞活動として、市内の美術館と連携した鑑賞会、及び、市内4地区に分かれて会場校の体育館に各校から美術部の生徒が集まりともに表現活動をする機会を設けた。例年、各校10名ほどの美術部員が参加し、総勢150名ほどで、美術部の交流の場として貴重であったが、昨年度よりコロナウィルス感染防止の観点から、各校5名程度と人数を限定して行った。少数精鋭のため、一人一人の生徒に目が届きやすく、生徒同士も空間をとれたが、心の距離は近く交流することができた。

*川崎市中学校第54回連合文化祭【令和3年10月27日（水）13時～16時】

川崎地区

会場：臨港中学校体育館

参加校：11校 参加人数：55名

内容：『水彩画 “私のあられる思い出”
～光に包まれた景色～』



幸・中原地区

会場：中学校体育館

参加校：13校 参加人数：65名

内容：『人物スケッチ “静と動”』



高津・宮前地区

会場：川崎市岡本太郎美術館

参加校：13校 参加人数：65名

内容：『常設展示及び企画展示の
鑑賞と対話』

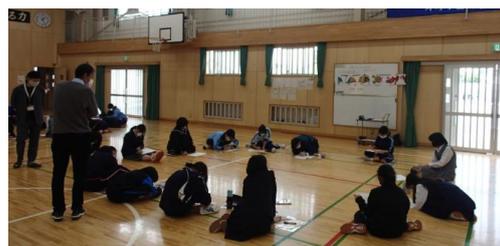


多摩・麻生地区

会場：西生田中学校体育館

参加校：15校 参加人数：60名

内容：『つながる絵を描こう』



4 ブロック 横須賀地区

1. 研究テーマ

「豊かな心を育てる造形教育」

—子どもによりそい・おもいをかたちに—
—であう・あじわう・つくりだす—

中学校部会 重点課題

- 1 造形研究会中学校部会の充実
 - ・ 仕事内容の明文化と組織力を強化する
 - ・ 神中美、他地区との情報交換や教科研究の場として充実させる。
- 2 研究活動の推進
 - ・ 研究会組織の活性化と教材研究・作品交流
 - ・ 教育課程の根ざし研究を進める
- 3 小学校や高校との交流
 - ・ 小中高合同の研究会の意義をふまえ、小学校や高校との交流を深める

本市の造形教育研究会は、小学校・中学校・市立高校・幼稚園・ろう学校・養護学校合同で行われ横須賀市造形教育研究会として活動している。教科総会、夏季実技研修会、児童生徒造形作品展、研究発表会等も同一で行われ、さらに特徴としては、美術館と共催で児童生徒造形作品展を美術館の開館当初（2007年度）より行っている。この作品展は、各校の年度内の研究発表の場であり、市立の幼・小・中・高が同じ会場に展示されて、観覧者数も1万6千人に及ぶ。

教育課程、美術科担当者会は中学部会として独立して年数回行われている。また、市研究部主催の研究会も計画的に行われ、近年増えている新採用教員への研修や、学校間での教材研究や作品交流の場として機能している。

今年度はコロナ禍での影響を受け、中止となるものが多かった中、開催期間短縮もありながらも児童生徒造形作品展を開催できたことは、今後の造形教育に大きく影響を与えるものである。横須賀美術館 HP による作品展示風景公開は、美術館に中々足を運べない方々にも鑑賞していただく機会となった。これを機に美術館と更に連携し、是非継続していきたいと考える。



児童生徒造形作品展搬入風景

2. 研究内容・活動内容などの実践報告

4月7日(水)	教科総会	(不入斗中学校)
4月28日(水)	神中美役員会	(鎌倉芸術館)
5月26日(火)	令和3年度神奈川県公立中学校教育研究会	美術科部会総会中止
6月9日(金)	造形研究会中学部会	(不入斗中学校)
	第3回令和4年度神中美研究大会準備委員会	
6月23日(火)	教育課程1日目	オンライン開催
6月25日(金)	県ブロック・地区代表者会議	(近代文学館)
8月3日(月)	中学校教育課程研究会第2日目	(市総合高校)
8月5日(金)	研究部研究会(中連文準備)	(不入斗中学校)
	第4回令和4年度神中美研究大会準備委員会	
8月20日(金)	夏季研修会	
9月6日(月)～1月21日(金)	中連文巡回作品展	

- 10月20日(水) 造形教育研究会中学部会 ※県展搬入作品 (不入斗中学校)
第5回令和4年度神中美研究大会準備委員会
- ~~10月22日(金) 第48回研究大会相模原大会 書面開催~~
- ~~10月22日(金) 第64回三潮会展(横須賀市教職員) 中止~~
- 11月18日(木)～19日(金) 第60回関東甲信越静地区造形教育研究大会
- 11月24日(水) 造形作品展担当者会 (オンライン開催)
- 11月30日(水)～5日(日) 第55回神奈川県中学校美術展 (神奈川県民ホール)
- 1月13日(木)～31日(月) 第74回児童生徒造形作品展 (横須賀美術館)
横須賀美術館HPにて作品公開



~~1月20日(水) 第74回造形教育研究会発表会 中止~~

2月1日(火)～2日(水) 造形作品展 搬出 (横須賀美術館)
※県作品展・中連文作品返却

3月4日(金) 美術科事務局会議 (不入斗中学校)
…中総体シンボルマーク審査・年間反省・組織検討
版画集『よこすか』No64 発行

3月28日(月) 令和4年度 神中美研究大会準備事務局会

3. 今後の課題・まとめ

研究部会が中心となり継続的に研修会・研究会を開いていく方向となっている。また、今年度の研究大会に向けても、大会テーマでもある「感じる」をそれぞれ主軸にしながら、4ブロック三浦・逗葉地区と合同の研究会を持ち、各地区でA表現1ア・A表現2イ・B鑑賞の3グループにわかれて研究を進めている。新しい評価についても、今年度研修会等で共通理解をはかりながら授業改善へ活かし、生活や社会の中の形や色、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成の3つの柱について更に深めていきたい。やるべきこと・やれること・やりたいことの3つがバランスよく教育課程の中に組み込み、カリキュラムマネジメントにも配慮したものにしていかなければならない。

1月に行われている「児童生徒造形作品展」は、横須賀美術館開催が市民にも定着してきており、長期間の展示により観覧者も年々増えている。

学校を巡る状況としては、教科としての情報交換や交流はますます必要と思われる、公務の多忙さもあり、オンライン等での会議を行うことで、グループや出張など有効に活用していきたい。chromebookを研究実践の報告やまとめなど授業のみで使用するのではなく、少ない人数だからこそ効率よく研究を進めていくためにも、より良い活用法を見出していきたい。



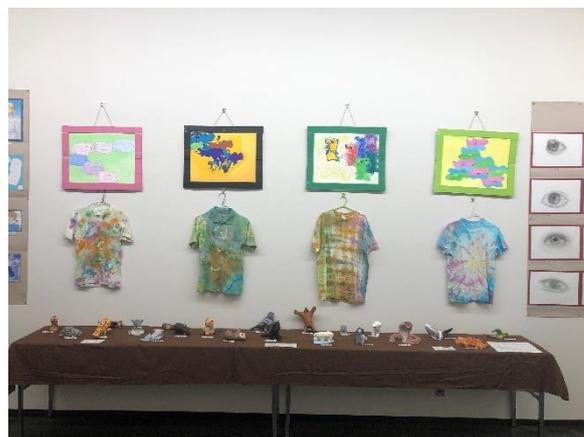
横須賀美術館屋上より

5ブロック 鎌倉地区

《活動内容について》

今年度は6回の部会を開催し、市内生徒美術展の企画・運営、みどり課絵画コンクール・MOA 絵画コンクール・ユネスコ絵画コンクール、市内のポスターコンクールの審査等、意欲的に活動した。

○鎌倉市生徒美術展について



鎌倉市内生徒美術作品展

11月3日~11月8日

会場：鎌倉市生涯学習センター

(作品数約 1876 点、来場数約 432 人)



○研究について (成果と課題)

年間指導計画・評価計画を作成する上でのポイントについて共有をし、作成することができた。また、湘三教育課程研究会の発表についての打ち合わせをもち、部会の中で発表者へ助言をすることができたとともに、ICT 機器を活用した授業実践について情報共有することができた。コロナの影響により合同鑑賞会などは開催することが出来なかったが、各校で感染対策を行いながら活動を進めた。生徒美術展での展示や地下道ギャラリー50で美術部の作品展を行うことができた。

課題としては、授業参観したうえで授業実践について協議をしたり、講演を聴いたりするなどの研修を行うことができなかったことである。今後は美術部の行事のみならず、授業力向上のための研究の時間を充実させていきたい。

5 ブロック 藤沢地区

1、研究テーマ『感じる・考える・表現する ～評価について考える～』

研究テーマは、刻々と変わる社会情勢の中で美術科の役割を再確認し、生徒たちが感性豊かに表現する作品を適切に評価したいという考えから設定されたもので、継続して取り組まれている。

四季の移ろいや光の効果による美しさを感じることはできても、「なぜ、そのように感じられるのか」と問う姿勢がなければ、学びへの探究心は深まらない。

また、仕上がりの良し悪しだけの評価では、自身の取り組みに対する心の充実感が高まらない。

これらのことから、主体的な学びの態度を促すには、自分に不足していることは何か、どうすればできるようになるのかと思わせ、自分に必要な学びの見通しを立てさせ、自身の取り組みの効果を判断できる授業の構造化が必要と考えた。

2、研究の内容

(1) 第53回藤沢市中学校美術展

今年度は藤沢市民ギャラリーにて開催、市内19校に白浜養護学校と学校教育相談センターが加わり、出品総数は2,285点、来場者数は5,257名であった。各校の取り組みや工夫を元に、新型コロナウイルス感染対策、新たな題材開発や指導方法について検討を行った。

また、来場者には、各校の授業の取り組みを載せた冊子を配布し、美術の授業に対する興味や理解を深めてもらおうとする試みを行なっている。

作品紹介：

大庭中学校の2年生は、1年次に制作した塑造作品を組み合わせて構成し、ドライポイントの技法で想いを表現した。下絵からニードルで彫ってゆく過程では、線の力強さが集積されてゆく様子が表現されており、黒インクとプレス機を用いた表現と手彩色を施したコントラストが、美しい展示となっている。

藤ヶ岡中学校の3年生は、学校生活の中でできる新型コロナウイルス感染予防のピクトグラムを考え、デザインした。単純化や強調、配色など、絵の具で見え方を意識した着色が施されている。展示を通じて、生徒たちの新型コロナウイルス感染予防に対する意識の向上が感じられた。

湘洋中学校の3年生は、「自分自身のマーク」をデザインした。自分が伝えたいイメージを、色彩のバランスや構成要素などを用いた絵の具の着色と、画用紙を重ね貼りしてメタル箔で仕上げたレリーフで表現した。色鮮やかな表現と独特な風合いのメタル箔の表現との対比を味わえる展示となっていた。

(2) 『授業研究』

第一中学校、岩永莉里教諭の授業実践、「コマ撮りアニメーションをつくろう」を元に、参加者は生徒となり授業を体験し、意見交換した。

授業の冒頭でストップモーション・アニメを鑑賞し、題材への興味・関心を引き出し、映像がどうやって造られているのだろうかと思いを促す工夫が感じられた。続いて、機材や静止画・動画の仕組みについて学習し、実技で取り組む絵コンテの役割の理解を深めていた。

生徒作品の紹介では、身近な素材やイラストを用いて創意工夫する様子が見られる。

鑑賞の授業では、グーグル・クロームの共有システムを用いて、作品を教室全体で鑑賞したり、個々に鑑賞したりできるように工夫が施されていた。

このことについて、タブレットを活用した画像の撮影と編集方法、ファイルのURL取得や提出方法について、参加者全員でブラッシュ・アップを図った。

[岩永教諭の指導案より]

題材【コマ撮りアニメーション】の評価について

指導案での評価基準

評価の観点	評価規準	Aと評価するキーワード
知識および技能	・道具の使い方を理解し、ただしくつかうことができる。 ・自らの主題を表すことができる。	より発展的な技能を駆使している
思考判断表現	・コマ撮りアニメーションならではの表現を考えることができる。 ・撮影をするときに工夫した構図を考えることができる。	表現方法についての工夫を追求している
主体的に学びに向かう力	・作品の制作や鑑賞を通して、構図や工夫を味わい、楽しんでいる。 ・計画的に作品の制作に取り組んでいる。	熱心に粘り強く取り組んでいる

授業研究後に行った、自分ならどのような評価基準を設けるかというアンケートについては次のとおり。知識及び技能の観点では、アニメーションの特性を生かしたストーリー展開や視点が必要とする見解が多いことから、表現が技法に影響されやすい題材であると感じる。

カメラアングルやコマ割りなどの空間活用は、技術的な部分に観察力や発想力といった側面も含まれていることから、思考・判断・表現の観点と重複しないように区分して評価する必要がある。

思考・判断・表現の観点ではストーリーの意外性が挙げられているが、起承転結の理解がアニメーションの特性に置き変わってしまわないように注意を要する。

主体的に学ぶ力の観点では、授業のねらいに対して自分がすべきことを理解しているか、必要な手立てを考えているか、取り組みの結果はどうなったのかについて、生徒の振り返りシートから比較・検証する評価方法を取り入れられるなどの意見があった。ただし、自分なりの計画と手立てを考えさせる際には、授業内容から逸れた取り組みに陥らないように、指導者は単元目標と評価の基準をしっかりと伝えておく必要がある。

本題材については、メディア表現の可能性を知り、ICT機器の実践的活用を学ぶことができることから、高度情報化社会に対応してゆくために必要な学びの入り口として、大いに参考となる研究授業であった。

(3) 教員美術展『ぱぴるす展』

今年で41回目を迎える美術科教員の美術展で、自身の表現力を高め、教科指導の向上を図る目的から始まったものである。

日本画、油彩画、デザイン、彫刻、陶芸、工芸、立体造形など、それぞれの専門分野でチャレンジした作品を発表している。

3. まとめと今後の課題

新学習指導要領の施行年度であり、授業づくりや評価の方法について、美術部会の活動を通して題材の情報交換をしたり、講師招聘を通して研究会を開催したり、授業研究協議を積み重ねることで各校が同一方向に足並みを揃えて進めてゆくことを心がけた。

藤沢市中学校美術展では、多種多様な題材設定や試みがされおり、特に新型コロナウイルス感染対策を講じながら安全に授業が実施できるように工夫された教材が見られ、各校の取り組みの参考になる作品展であった。また、新型コロナウイルス感染対策に関しては、今後も安全に配慮しながらも、学習活動に支障が生じない授業の構造化への取り組みを継続してゆかねばならない。

次年度の藤沢市中学校美術展でも、来場者の方々に安心して作品を鑑賞していただけるように、消毒の徹底やソーシャル・ディスタンスの確保など、新たに担当する方たちへのサポートが必須である。

6 ブロック 伊勢原地区

1. 研究テーマ

「感じる心を育てるための表現・鑑賞方法の模索」

「指導と評価の一体化」

- ①基本的な造形能力を育て、一人ひとりの特性に応じた造形活動および鑑賞ができるようにする。
- ②指導と評価が一体となったカリキュラムづくりを行う。

2. 活動実践

(1) 美術の授業での新型コロナウイルス感染防止対策の検討

(2) 教員実技研修

8月19日(木) 山王中学校 落合陵子先生による実技講習「皮革工芸 カービング」
・皮革工芸の基礎技能を学び、カービングによるレリーフを制作



(3) 伊勢原市中学校生徒美術展

1月21日(金)～23日(日) 伊勢原市中央公民館にて生徒美術展を開催
・市内中学校の授業作品・部活動作品の展示、約500名来場



(4) 市内中学校教育研究美術科部会・授業研究

2月16日(水) 中沢中学校 宇都宮裕先生「1学年 鑑賞・ユニバーサルデザイン」

- 目標
- ・ユニバーサルデザインについて理解を深めることができる
 - ・学級の友人の作品についてタブレットを用いて鑑賞することができる
- 協議
- ・コロナ禍における授業づくりについて
 - ・美術科におけるタブレット活用の意義と実践

6ブロック 中地区

1 研究テーマ

「妥当性・信頼性を高める学習評価の工夫と改善」

2 研究内容

- ・ 9月29日 中郡中教研美術科部会（オンライン）
- ・ 2月上旬 取り組みの反省（メールによる提出）

■ 各校の実践・成果

	実践	成果
1	<p><授業での生徒への関わりについて></p> <ul style="list-style-type: none">・評価を行う前に規準を伝え、制作途中の作品についてフィードバックするとともに、授業中に評価し、生徒が納得して次に繋げられるよう声掛けをした。・制作時のポイント及び評価項目を、都度授業内で提示し、制作時の机間巡視では生徒が目的意識をもって制作の楽しさを実感できるような声掛けをした。	<ul style="list-style-type: none">・観点ごとに成績が何によってつけられているのかを理解した生徒が多かった。・単元の目標やポイントを簡略化し、実践と評価を反復したことにより、単元の目標やポイント、評価に対する理解が深まった生徒が多かった。
2	<p><ICT・オンラインの活用について></p> <ul style="list-style-type: none">・制作プロセスを動画で撮影したものを単元の最初に見せ、制作に見通しを持てるよう工夫した。・実技の制作の様子（作例）やスライド資料の動画をオンラインにアップした。・毎回、板書や宿題・本時の取り組み内容、次回の予定をクラスルームにアップした。・授業の最後に自分の作品を撮影し、個人のタブレットPCに振り返りを打ち込んだ。・作品を屋外に出し、各々のタブレットで写真撮影を行った。	<ul style="list-style-type: none">・視覚的な情報として毎時間ごとの取り組みが残るため、具体的な反省や制作の満足感につながった。・オンラインの資料を2次元コードからいつでも見られるようにしたことも、有効であると感じた。・クラスルームに情報が残るため、生徒が自主的に復習することができた。・タブレットの積極的な活用を目指した新たな試みということもあり、生徒が興味関心をもって取り組むことができた。
3	<p><評価材料について></p> <ul style="list-style-type: none">・短縮授業も多くなり、振り返りの時間が確保できないため、毎時間行っていた振り返りを単元ごとにした。・評価材料を見直し、整理した。	<ul style="list-style-type: none">・チェックの負担軽減を目的とするとともに、生徒自身提出物が多ければ多いほど評価がばやけてしまうため、評価材料を整理することも有効であると感じた。

各校とも、年度はじめや単元ごと、学期末等時期に差はあるものの、学習評価について生徒に「評価物の種類」「観点」「どのタイミングで評価を行うのか」をプリントで提示したり、授業内でも板書や机間巡視において生徒の制作過程での評価内容を丁寧に伝えていることが共通して挙げられた。

評価項目や規準などを事前に周知し、実際制作している最中にもポイントに基づいて指導を行うことにより、単元で身に付けたい能力が明確になり、生徒も活動の目標を立てやすくなった。また、それが生徒の課題に向かうモチベーションを上げることに繋がった。

今年度の各校の実践を通して、教材準備や評価材料をデジタル化にすることにより、準備や評価の時間短縮ができたこと、生徒の興味関心を引き出すことができたことが各校とも共通して挙げられた。また、生徒自身の振り返りにおいて、制作過程が視覚的な資料として残ることにより、自分の活動を客観的、かつ具体的に振り返ることができ、達成感を得られることも大きな成果として挙げられた。

3 課題及び来年度への展望

今年度の取り組みを通して、「生徒も納得して評価を理解し、取り組みの改善を行えるようにするためには、教員側の準備をいかに丁寧に行うかが重要だと改めて感じた。そういった点ではオンライン上に課題を作成するのは時間短縮になり有効だった。」という、ICT 機器やオンラインの環境を積極的に利用することで生まれる、時間的な余裕の確保に関する意見のほか、「美術室の Wi-Fi の環境が悪く、アイデアを考える時などのネット検索が困難な時があった」など、ハード面の課題も上がった。

また、4 観点から 3 観点となったことにより、知識と技能が一体化されてしまったため、観点の取り方によっては制作活動の上では A° でも、テストで得点できないと「B A° A°」で 4 になってしまうことがあることも問題として挙げられた。該当生徒には丁寧な説明責任を果たすとともに、日頃の授業の中で「なぜこの単元を学習するのか」を意識させ「制作するうえで身に付けてほしい知識」について生徒が反復した学習を行うことができるよう、学習資料を精査していく必要がある。

筆記テストについては「授業内での扱いの時間が少ないため、筆記テストの内容・形式を再考する必要がある」という意見もあり、今後、各校の定期テストの取り組み方やその内容について研究することも有効である。

今年度も新型コロナウイルス感染症による影響のため、研究会としての活動や 5 校が一つの場所に集まることが難しく、オンライン研究会を開催することとなった。しかし、その中でも美術科における形成的評価のあり方、ICT 機器やオンラインツールを使用した他校の実践、新学習指導要領の内容の確認や評価の妥当性等、多くの課題について意見を交換し、効果的な取り組みを互いに学び実践することで課題解決を図ることができた。しかし、やはり直接資料のやり取りをしたり、実際の授業を参観することでしか得られないものもあるため、次年度以降はより直接集まったの研究協議や、他地区の生徒作品を展示・鑑賞する機会を設けられることを願う。

6ブロック 平塚地区

1. 研究テーマ「新学習指導要領の指導と評価」

2. 研究内容・活動内容などの実践報告

(1) 中地区中学校教育課程研究会

令和3年8月4日（水）（書面開催）

(2) 実技講習会

① 実施日 令和3年8月11日（水）

② 会場 平塚市美術館 アトリエ

③ 講師 上島 明子 氏

④ 内容 「こうき綴じ和綴じ製本」

和綴じ製本の中でも、綴じ穴が多く本格的な製本の技術を習得することができた。

(3) 計画訪問

① 実施日 令和3年11月25日（木）

② 会場 平塚市立神明中学校

③ 授業 文字デザイン（1年）

④ 研究協議

今年度のテーマに沿ってのグループ協議を行い、「指導と評価の一体化」の成果や課題を見いだすことができた。

(4) 神奈川県中学校美術展

① 実施日 令和3年11月30日（火）～12月 5日（日）

② 会場 神奈川県民ホール 第3・第4展示室

③ 神奈川県内の公立中学校の作品を展示した。

平塚市からは11校が出品し展示された。

(5) 平塚大磯二宮地区中学校美術展

① 実施日 令和4年1月26日（水）～1月30日（日）

② 会場 平塚市美術館 市民アートギャラリー

③ 新型コロナウイルス感染症対策のため中止にした。

7ブロック（小田原・足柄下地区）

1. 研究テーマ 「主体的に学ぶ生徒を育てるための授業づくり」

～うけつぐ つなぐ ひろげる学びを通して～
以前から研究テーマとして取り組んできた「うけつぐ つなぐ ひろげる」を中心に、美術科における「見方・考え方」のとらえと「対話的で深い学び」について協議を行いながら、授業研究や研修会を行い、研究を進めた。



2. 研究内容・活動内容

(1) 研究日程

日 時	内 容
4月9日(金)	第1回美術科部会 年間計画と役割分担
6月4日(金)	第2回美術科部会 研究テーマについて各校の取り組みと情報交換 研究計画
8月	夏季研修は新型コロナウイルス感染症予防の緊急事態宣言中だったため中止
9月10日(金)	第3回美術科部会 中学校生徒美術展準備会
10月28日(木) ～ 11月4日(木)	小田原・足柄下地区中学校美術展
11月5日(金)	第4回美術科部会 提案授業の動画による参観と協議、指導助言
1月12日(水)	第5回美術科部会 年間反省 次年度に向けて

(2) 研究内容のまとめ

今年度の研究では、新指導要領の観点や評価のあり方について、各先生方のとらえ方や実践をもとに、班別協議などを行った。

夏季研修が新型コロナウイルス感染症予防の緊急事態宣言中だったため、中止となったことと、11月に実施した研修会では、白山中学校の國吉耕介教諭の授業参観も行えなくなり、研修の大きな機会を失ったことは非常に残念だった。

しかし、授業は動画を撮らせてもらい参観に代えたり、先生方の実践内容をデータでまとめたりするなどICTを利用して、研修を深めることもできた。

今年度、急激に導入されたICT機器やそれを取り巻く環境も、学校ごとに差があり、どのように利用していけば良いか悩んだり困ったりしている職員も少なからずいたが、美術科研修会で取り組みについて意見交換ができたことは非常に有意義であった。また、美術の授業の中で、どのようにICTを活用することができるかなどについても研修を深めることができた。

また11月の研究会では、講師の横浜国立大学教育学部の小池研二教授から、今年度から始まった学習指導要領での指導と評価のあり方など、実践の通じて見えてくるものについて具体的でわかりやすく講演していただいた。

(3) 小田原・足柄下地区中学校美術展

10月28日から11月4日までの会期で生徒美術展を開催。生徒美術展でも、研究テーマと内容を掲示するとともに、関連する題材や作品にマークをつけて、見学者にもわかるように明示。また、各校の実践内容について展示されている作品をみんなで見賞しながら、説明し合った。会場が変更になり、交通の便が良くなったことで観覧者が多くなり、良い作品展示ができた。

7ブロック 県西 南足柄地区

1 本年度の研究主題

「豊かな創造を引き出し、作り出す喜びを高める授業力、指導力の向上」

2 年間事業計画

- (1) 第1回合同研究会 4月30日(金)～5月12日(水) 書面による開催
研究主題と年間計画の検討
- (2) 第2回合同研究会 8月25日(水) 書面による開催
図工・美術実習 風景画の指導法 講師：西濱 夏美 氏(南足柄中学校教諭)
- (3) 第3回合同研究会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- (4) 第4回合同研究会 1月18日(火)～2月1日(火) 書面による開催
年間活動のまとめと次年度に向けて

3 研究日程と活動

- (1) 8月25日(水) 第2回合同研究会

「子どものいきいきとした表現と、心豊かな感性が高まる授業力、指導力の向上」というテーマで研究を行った。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による開催となった。講師より資料提供を受け、各校で風景画の指導法について研修を行った。講師から資料の提供を受け、風景画を指導する際の技術的なポイントについて理解することができた。

- (2) 各中学校での文化活動発表会

各校で、文化活動発表会等を通し、展示の充実を図っていった。学年フロアや美術室のスペースを工夫し、様々な演出と共に作品を展示することができた。

また、地域の風景画コンクールなど、各種コンクールへ応募を募り、コロナ禍においてもできる限り地域との連携や発表の場を設けた。

4 今後の課題(まとめ)

新型コロナウイルス感染症の影響により、南足柄市・足柄上郡合同の展示が中止となり、各校との交流の機会をあまりとることができなかった。今後もこのような事態が続く可能性をふまえ、他校との交流の形や、展示会の在り方を、今一度見直して計画する必要があると考える。昨年度同様、感染症対策をしながらの教育活動が今後も続いていくと考えられるため、鑑賞や制作におけるグループ活動や話し合い活動の方法を配慮していく必要がある。

また、感染症対策から進んだICT機器を様々な形で積極的に取り入れ、鑑賞や制作、表現の楽しさを生徒が感じることでできるような授業展開を考察していきたい。

8 ブロック 座間地区

1. 研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

2. 研究内容・活動内容などの実践報告

(1) 研究授業

① 栗原中学校 山上 祐子 教諭 2021年6月16日 1学年

「風神雷神図屏風」の鑑賞

生徒の主体的な話し合いにより、対話から深い学びにつながる鑑賞の授業

② 相模中学校 三宅 朋嶺 教諭 2022年1月14日 3学年

みんなで作る卒業制作

I C T機器を活用して、グループごとにプレゼンテーションを行う授業

(2) 座間市中学校総合文化祭展示部門への参加

会期 2021年11月5日(金)～11月6日(土)

会場 座間市文化会館（ハーモニーホール座間）ギャラリー



3. まとめと今後の課題

昨年度に続き、今年度もコロナ禍の活動となったが、県美術展、市中学校総合文化祭展示部門、市青少年美術展に、例年通り作品を出品することができた。研究授業も例年並みに2回行うことができ、鑑賞と表現において、新学指導要領に則した研究テーマに基づいた授業を展開した。また、今後ますます必要となるであろうI C T機器を活用した取り組みについても実践を踏まえて協議することができた。

今年度は結局延期となったが、来年度からは市中学校総合文化祭展示部門の開催が1か月早くなるので、他教科との連携を図りながら展示の準備を進めていく必要があると感じる。授業の改善、評価評定の研究、I C T機器の活用、作品展示の在り方等、今後も美術科として解決すべき課題は山積していると痛感する。

8 ブロック 大和地区

1、研究テーマ 「新しい評価方法に基づいた題材研究と、その指導・評価の工夫について」

新学習指導要領が完全実施となった今年度は、上記のテーマに基づき情報交換と討議を行った。昨年度に引き続き、コロナ禍という現状を踏まえての部会開催のため、特別に講師に依頼しての研修等は実施できなかったが、年間を通して部会が開催となり、各校直接の情報交換を行うことができた。部会では、授業で各校が使用しているワークシート等を持ち寄り、題材や具体的な評価方法についてグループで討議し、部会全体で共有を行った。

2、主な実績報告

今年度、市内等で研究発表を行った教員の実践を一部紹介する。

(1) 題材名『私の守り神～なりたい自分になるために～』（1年生 10時間）

指導者 上和田中学校 白石拓海 （令和4年度教育課程発表予定）

<題材及び実践の概要>

本題材では、「なりたい自分」から発想を広げ、それを助けてくれる・見守ってくれるような存在を“守り神”と称して、形・色・素材の特徴を生かしながら石粉粘土で表現した。また、今回の研究主題である「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」から、互いの見方・考え方を共有するような活動を通して、生徒たちが主体的により豊かな発想を生み出したり、アイデアを深めたりすることができるようになることをねらいとして行った。

(2) 題材名『身の回りの“色”発見』（1年生 8時間）

指導者 下福田中学校 田村美可子

<題材及び実践の概要>

本題材は、校内研究のテーマである「生徒とともに創る主体的な学びの場」に基づき行った授業内容である。（11月2日に市内での公開授業実施）研究のキーワードとなる「主体的・探究的な学び」「後追い型指導」のもと、授業では身近な素材から「色」を集め（2～3時間目）、集めた色の中から表す色を自分で決めて、「混色ノート」を活用しながら混色の学習をした。混色に必要な色を自分で選び、仲間とアドバイスを送り合いながら、色の改良に活かした。また、制作した色のカードを「My 色彩図鑑」にまとめ、そこから自分が表したいイメージの配色を考えた。

3、まとめ

今年度もコロナ渦における教育活動となったが、その中での各校の授業の工夫や、新しい評価の観点をいかに授業内で見取っていくかなどについて意見交換をし、それぞれ共有することができた。特に、昨年度から1人に1台配布されたクロームブックについては、作品の鑑賞及び制作で活用する学校も多く、美術科におけるICTの活用の可能性を見出せた。

例年開催される市の校総合文化祭に関しては、感染症対策の観点から昨年度同様、今年度も開催を見送り、その代わりとして各校の生徒の作品を収めたフォトムービーを制作した。今後はその活用方法も含め、より充実した美術展の開催方法についても十分に検討していきたい。

8ブロック 厚木・愛甲地区

1. 研究テーマ 「美術がつなぐ豊かな学び」

2. 美術科研究部会年間活動内容

日時	活動	開催場所	活動内容
4月12日(月)	第1回美術科部会	愛川中原中学校	部長・副部長の決定、年間事業計画の検討
5月17日(月)	第2回美術科部会	南毛利中学校	研究テーマ決定、年間計画設定
6月22日(火)	第3回美術科部会	南毛利中学校	学習発表会に向けて
7月29日(木)	第4回美術科部会	厚木中学校	学習発表会の要項確認、教科一斉研究会の計画
	教育課程研究会	書面開催	研究発表
11月4日(木)	教科一斉研究会	南毛利中学校	研究発表、講義
1月14日(金) ～18日(火)	美術科学習発表会	アミューあつぎ アートギャラリー	授業作品の展示
1月25日(火)	第5回美術科部会	リモート開催	反省・次年度に向けて

① 授業実践集と教科一斉研究会について

研究テーマである「美術がつなぐ豊かな学び」のもと、新学習指導要領を実施しての課題と、それぞれがどう意識して工夫したかを「美術科実践記録集」としてまとめました。11月4日(木)の教科一斉研究会では、各校で行った授業について発表し、意見交換をしました。実際に生徒が制作した作品や、ワークシートなどを見せ合うことで、より深くその題材について知ることができました。また、少人数グループで行ったため、質問等がしやすく、活発に話し合うことができました。その後の、講義・助言も今後の授業作りや評価の際に生かせる内容であり、充実した研究会となりました。



② 美術科学習発表会について

1月14日(金)～1月18日(火)にアミューあつぎのギャラリーに、厚木・愛甲地区の18校の作品を展示しました。制作者のコメントカードやその題材について説明するキャプションも掲示することで、指導のねらいや授業のポイントが分かりやすくなりました。保護者や生徒も多数訪れ、自分の作品を見つけて喜ぶ様子が見られ、生徒の自己肯定感を高め、今後の励みにもなる展示となると思われました。発表会後は、展示作品をいくつかのブロックに分けて各校に展示する巡回展を行いました。発表会に足を運ぶことが難しい生徒も、他の学校の作品を見ることができる良い機会となりました。



会報作成の目的は、各地区で「取り組んでいること」や「活躍している美術教師のグループ・個人」の情報を全県下に広く紹介することです。

会報によって各地区の取り組みを知り、参考にさせていただくとともに、神奈川県的美術科教師の相互理解を深めることができると考えておりますので、積極的な協力をお願いいたします。

なお、今後も会報の充実を図る意味からも、今年度ぜひ全地区からの情報が掲載できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

(1) 主な内容

- この一年間で各地区で実践・研究したこと
- 各地区で活躍した美術教師（グループ）及び内容
- 美術展・研究会等の内容報告 など

あまり形にこだわらずお書きください。

(2) 記載事項・記載方法（次ページ参照）

- ・原則としてこのように考えますが、報告する内容によって各地区で工夫していただいてもよいと考えます。
- ・記録等で写真がございましたらレイアウトして載せていただくと、よりわかりやすい報告となります。

原稿サイズ	A4縦(横書き)
文字数	44文字
行数	50行程度
枚数	1～2ページ

ここの部分が、なかなかうまくいきません。周りの余白を空けることを、お守りください。

その他のデータ

一太郎あるいはワード	10.5ポイント			
ヘッダ21	フッタ20	左20	右20	ページは入れないでください

※できましたら、上記の環境での原稿を広報部にご提出していただくと幸いです。
※全体を統一させたいので、手書きはご遠慮ください。

(3) 提出時期・方法

提出時期 **2月末まで（期日の厳守をお願い致します。）**
提出方法 **各地区代表が作成し、広報部 上田までEメール添付にて提出します。**
(そのまま印刷しますので、FAXはご遠慮ください。)
提出先 〒238-0111神奈川県三浦市初声町下宮田3622 上田博幸
E-mail: j-hasse.ydt85@miura-ed.net

※届いたメールには、届いたことの確認の返信をします。

(4) 発行予定 **令和5年度 神中美総会後**

広報部編集後記

この会報は、神奈川県全ての地区の1年間を振り返りまとめた冊子です。会報を見ることで、一人ひとりの美術科の先生方に、神中美の活動を知っていただけるようにと思い、年1回発刊しています。会報の制作にあたり、各地区代表の先生方、お忙しい時間を割いて会報への報告を誠にありがとうございました。

今年度は実に3年ぶりに県西にて総会を行うことができました。また、県展も会場を変えて行います。コロナウイルス感染拡大防止のため制限されていた活動も少しずつ戻ってきました。

尚、広報部では、JB-net (jb-net.biz) というウェブページを開設しています。年間3回のJB通信とともに神中美の年間活動や広報活動をおこなっています。不定期で更新しております。

タイムリーに情報の伝達ができる手段となるので、何か連絡したいことがあれば広報部まで連絡をお願いします。

神中美広報部部長 上田博幸（三浦市初声中学校）

令和4年度

神奈川県公立学校教育研究会 美術科部会会報

発行日 令和4年（2022年）5月26日

発行者 神奈川県立公立中学校教育研究会
美術科部会

代表者 神奈川県立公立中学校教育研究会
美術科部会会長

秦野市立南が丘中学校

校 長 加藤 淳也